

「トラベルヘルパー」が外出支援

気兼ねなく 高齢者も旅へ

高齢者をほしめサポートが必要な人の外出を支援する介護技術の専門家「トラベルヘルパー」の活躍で、高齢者の旅の選択肢が広がっている。2009年に始まった認定資格を持つヘルパーは年々増え、現在は500人以上に。今年から大手旅行会社も参入するなど、利便性も向上している。

近所の墓参りに、孫の結婚式に…

大手旅行社も参入

手伝いだけでなく、長い階段を引上げたりする際に声を掛けて手助けする人を探すなどの補助も大事な仕事だ。気晴らしの散歩で、話し相手になるケースも。

埼玉県春日部市の山口初位さん(60)は85歳だった父板橋昌利さんと10年、鹿児島を訪れた。板橋さんは旧日本軍の元特攻隊員。「沖縄に散った仲間が最期に目にした薩摩富士(開聞岳)を、自分も死ぬ前に一度、見ておきたい」と話していたが足腰が弱り、車いす生活を余儀なくされていた。

山口さんはヘルパーを紹介する「あ・える倶楽部」と連絡を取り、担当したヘルパーの宇田川広子さんは車いすでも搭乗可能な航空機を手配。板橋さんは戦友と同じ空から開聞岳を眺め、静かに涙ぐんだという。知覧の史料館では自身が戦友に出したはがきが展示されているのを発見した。板橋さんは昨年死去。「今ごろ、雲の上で知覧の土産話をしているかも」と山口さん。

「あ・える倶楽部」と提携。旅行の際に介助などが必要な人に対し、ヘルパーの紹介を始めた。日本トラベルヘルパー協会の徳塚恭一理事長は「空港や駅の案内はバリアフリー対応が進んでいるが、問題はその後。飛行場まで連れていくヘルパーがいて、到着空港から旅行先を案内するヘルパーがいればどこへでも行ける。ITの発達で各地のヘルパーとテレビ電話機能を通じて顔を見ながら話ができ、調整が格段にやりやすくなりました」と力を込めた。

「あ・える倶楽部」の場合、トラベルヘルパーの1日の基本料金は2万2500円。ほかにもヘルパーの交通費などが必要。あ・える倶楽部 ☎ 03-6415-6480



趣味のカメラで、開聞岳を撮影する板橋昌利さん(右から2人目)。左端は介護タクシーの運転手=2010年、鹿児島県



トラベルヘルパーの養成研修。沖縄県うるま市は町を幸じて養成に取り組み 同市

和みあう いのち

06

認知症で徘徊の症状があった91歳の男性が、一人で外出し線路内に入り、列車にはねられて死亡した。JR東海は、事故で列車が遅れたことによる損害などについて、遺族に賠償を請求。訴訟に発展したケースがあった。認知症の人を見守る責任は、家族だけが負うものだろうか。

福岡・大牟田の試み



絵・大伴好海

認知症の人を見守るまち

認知症という言葉が、まだ使われていなかった十数年前のこと。「カメラがとられそうだから預かって」と、険しい表情をしてわが家の玄関に立っていたおじいさんがい

いま認知症の人は300万と460万人。介護保険法が施行されて10年余りが過ぎ、患者は家族や施設に見守られ、介護を受けることが多くなっ

た。それで何度か預かってたことがある。踏切の前で「実家への切符が欲しい」と老いた女性にせがまれ、周りの人を巻き込みながら家まで送りよけられたこともあった。当時は、そうやって認知症の高齢者を受け止めていた。

10年以上になる自治体がある。人口が約12万人の福岡県大牟田市だ。小学校では認知症を学ぶ授業が行われ、一般市民を対象に毎年「模擬訓練」も行っている。

訓練というのは、認知症の人が行方不明になったと想定し、徘徊する役の人をたてて、みんなで協力して探す。活動の中心は介護や医療の関係者だが、市民が「どこに行きますか?」という声かけを、自然にできるまちを目指している。

この声かけは見習いたい。商店や郵便局、宅配業者などの連携が整えば、いのちを受けとめるまちを、育てられるかもしれない。

(米沢慧・評論家)

ふれあい

満開の桜の下、古希になるうばが6人が久しぶりに集い、中学時代に戻ったようにおしゃべりしました。

「孫が足を骨折したので、中学校の入学式に車で送っていった」というおばあちゃん、現役で家業を手伝うハッスルおばあちゃん、足腰が弱くなったと言いつつ、がらも口達者なおばあちゃん。初孫の写真を見せてもらい、何ともいえない表情にうつとろもしました。

若いときは細くスタイルの良

い方がいいけど、高齢者はどうかという話題も。「太い方がお金持ちに見えるのでは」「ペットボトルを踏みつぶすとき、太めは一回でグシャ、細めは後でポロンと元に戻るわ」などと大笑い。

来年の桜も元気で皆で見られるよう約束しました。闘病中で参加できなかった友人にも「桜の下で会おうね」と手紙を出しました。

福岡よし子
稲美町 主婦 69歳

くらし シニア

おひとりさまの 愉しみ 再び

本箱

著者は2009年に脳梗塞を発症。まひが残ったが、80代の1人暮らしの小さな喜びをつづった本を出版し反響を呼んだ。本書はその続編だ。

郷里の富山から奈良、神戸へと移り住んだ土地の思い出。両親や妹、夫への愛情。若き日の夢や仕事、積み重ねてきた年月を振り返り、今の生活をいとおしむ。

花や野菜、風景を描いた自筆画と、毎日の食卓の写真が添えられ、「描きつつ愉しみを見つけ、病いとなかよしの日々」を、情緒豊かに浮かび上がらせる。(ミネルヴァ書房・2700円)

孫と一緒

賢二さん(66)
久美子さん(49)
郷橋 美結ちゃん(7カ月) (朝来市)

【応募規定】おじいさん、おばあさん(お一人でも可)とお孫さん(未就学児のみ)が一緒に写った写真(必ず計5人以上)をお願いします。コメント(27字以内)、全員住所、氏名、生年月日、応募者の氏名と必ず電話番号を書いて、〒650-0857-1(住所不要)、神戸新聞社文化生活部「孫と一緒に」まで。なお写真は返却しません。

美結、毎日かわいい笑顔を見せてくれてありがとう

認知症予防 頭がいいラジオ

午前6時39分~44分

【来週の放送予定】 21日=指先を左右別々に動かす(脳体操) 22日=健康に良い和の食材「まごわやさしい」(食) 23日=はりの歌(回想) 24日=辞書競争(交流) 25日=お尻でバランスを取る(運動) ()内はテーマ

CRK ラジオ関西 558
(豊岡放送局1395KHZ)

神戸新聞NEXTでも内容を紹介